

「狩猟と農作物被害の関係」～農作物被害は狩猟によって減るのか～

現在シカやイノシシの被害によって山が枯れている。それにより土砂崩れになりやすい状況に陥っている、また鳥獣の数が増えたため農作物に被害が問題となっている。これらは鳥獣の数が適切であれば山が枯れることもない、農作物被害も難関で150億から200億もの被害は出ないだろう。適切な数に戻すために何をすればよいのかを考えるために調査をする。

文献調査やインタビュー調査によって、ジビエに価値を見だし、シカやイノシシの捕獲数を大きく増やした事例や、他国であるがオオカミを再導入し、増えすぎたシカを食物連鎖の観点から正常な数に戻す事例などを調べた。現役の鉄砲撃ちのTさんのインタビューで狩猟するのに足りないもの、必要な物などを聞かせていただき、本当に鳥獣の数を減らしたいのであれば何をすべきなのかを、現役のハンターの視点から語っていただいた。愛知県の株式会社山恵の事例では捕獲したシカやイノシシの食肉加工をするために買取を行う場所や、静岡のペットフード利用をする。ペットフード利用は内臓なども用いて、いるため廃棄も少なくなっている。鳥獣被害の多い場所では似たようなことができるのではないかと考えている。インタビューではハンターと行政の考え方がずれているように感じる。現場の意見が反映されていない。現場の現実と行政の理想のすり合わせができていないと、ハンターたちの活動に影響が出てくる。行政は、ハンターとの認識の差を埋め、改善しなければ現状の打破は厳しいように聞こえた。現在の政策などでは数を減らし切るのは、ほぼ不可能であると考えている。行政との協力とハンターの増加が正常な数に戻すのに最低限必要となってくると考えている。オオカミを再導入するにも農作物の被害こそ減れど、畜産などに対策や被害が及ぶ可能性がある。どのようなことをするにしても難しいことは変わらないが、今のままであると農作物被害なんかよりも、住む場所として危険である。